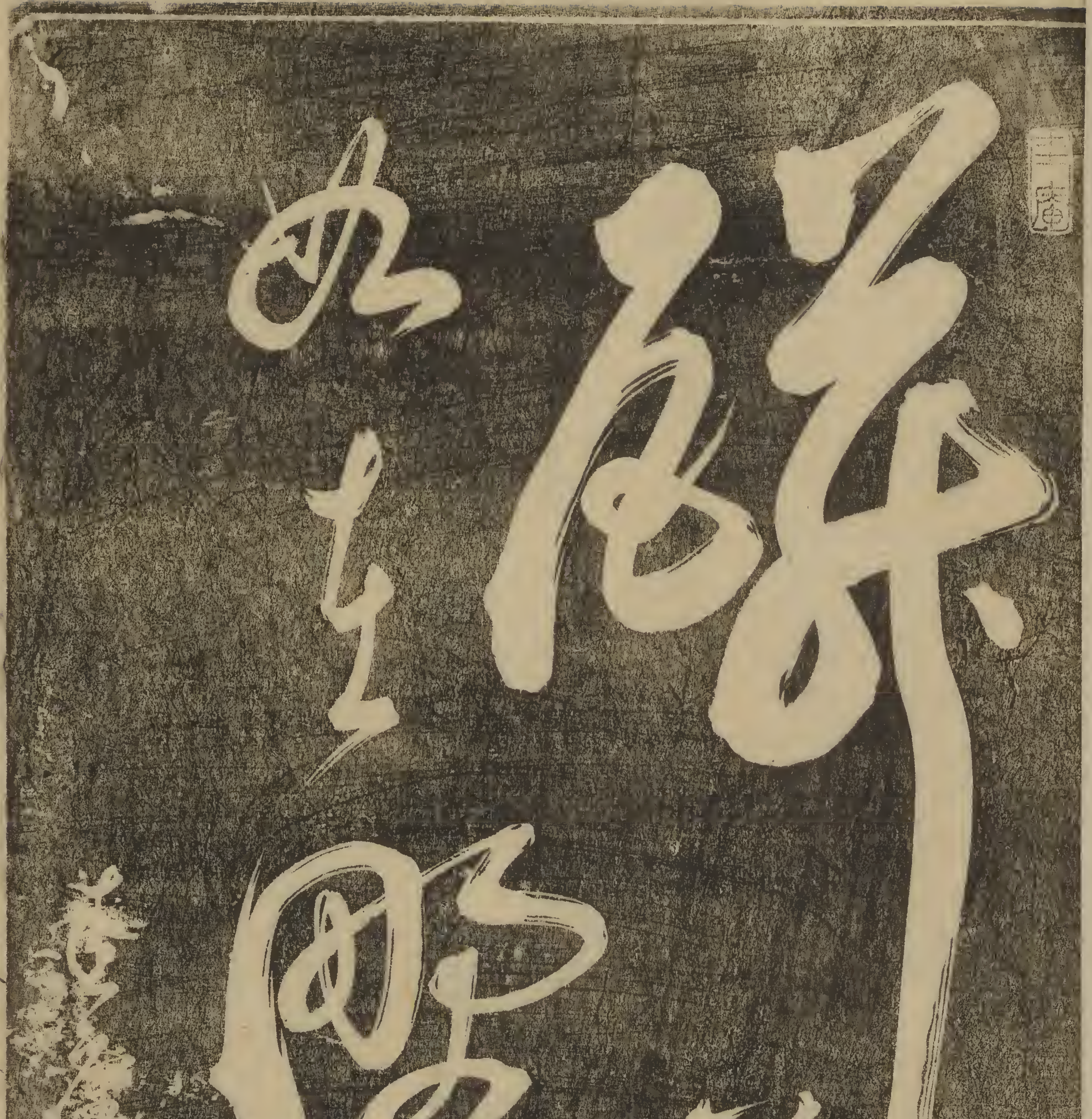
生花極意集　人

354

6993



教不容是師之謬
學不努則弟之咎
教學渇共處而美

文進庵一啓誌

一船書

序

後京極攝政良經公御庭記に草木を人家に植て
四神具足の地とし造事ハ是によれり大和なる草ハ
植て民用する益有物をいへり種樹書ハ艸木花
精陰陽地の寒暖和漢の通名是の時を諺次
其外あげてかぞへがたし於漢土晋恵隠沫
齊民要術或ハ通神經或ハ事林廣記或ハ撰艶花
此等類ハ挙て其代の名人にしてかつてす
既に文明年中より盆法を立て茲に大に盛之

元和年間當流の大君茶をもし給ふ甚右世上に
ふさく京都にたゆそれハ宝暦明和年中より
薄く給末流を弘峯て甚門に随ひ職中も術
の極意ゟ祖師ハ讓られ年移月立て
今世ハおのれ此意を专らとして先師の花形を
失ふ是を幹ハ枝被れて枝葉まつて本末をしらず
係て尊師此若き後之を撰出をたちてた
生ぬん事を計る世に交柳先生乃先祖坂
此濡をと正しく古の天此花形此尊信を故に著
て後日後を此出る時まもり皆く玉秋好の
者共をつけ當流古形再弘の師ゆく
しやすく則其書を観て解得せハ甚廣使を
志る邑し

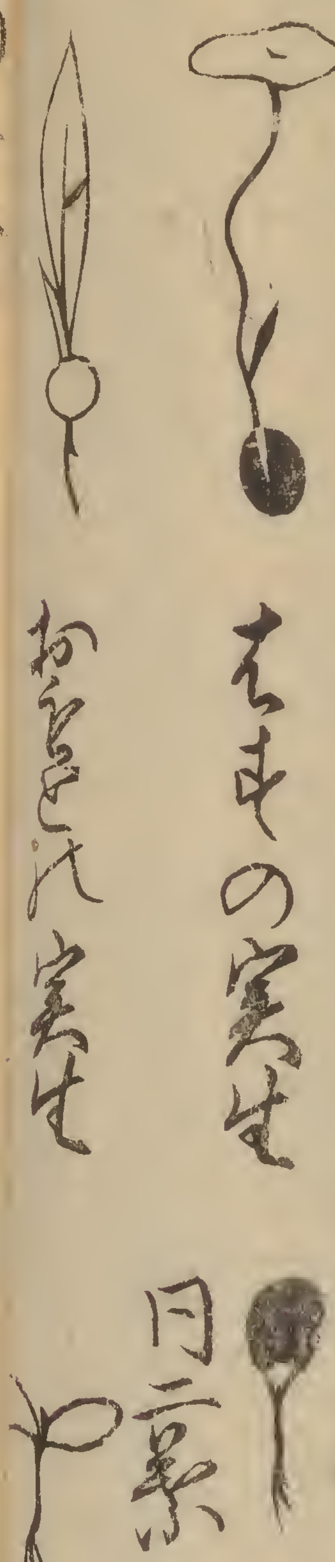
東都之祖
七代目春草菴述
交旭庵一昇誌

瓶中弱く見る事　口傳有

用ゆる本にて幹枝葉のくせを見べし
余木をまじゆべからず

幹枝之傳

一本のこまき枝多くはるなく又一株の根より
きき多く生る有　諸草木にもよくよく心を失て
くんするべし　わかめ古株を傳なく



たちの實生
かきとれ實生
日二葉
物はよりてさやを
らむけする
如此

萬年青

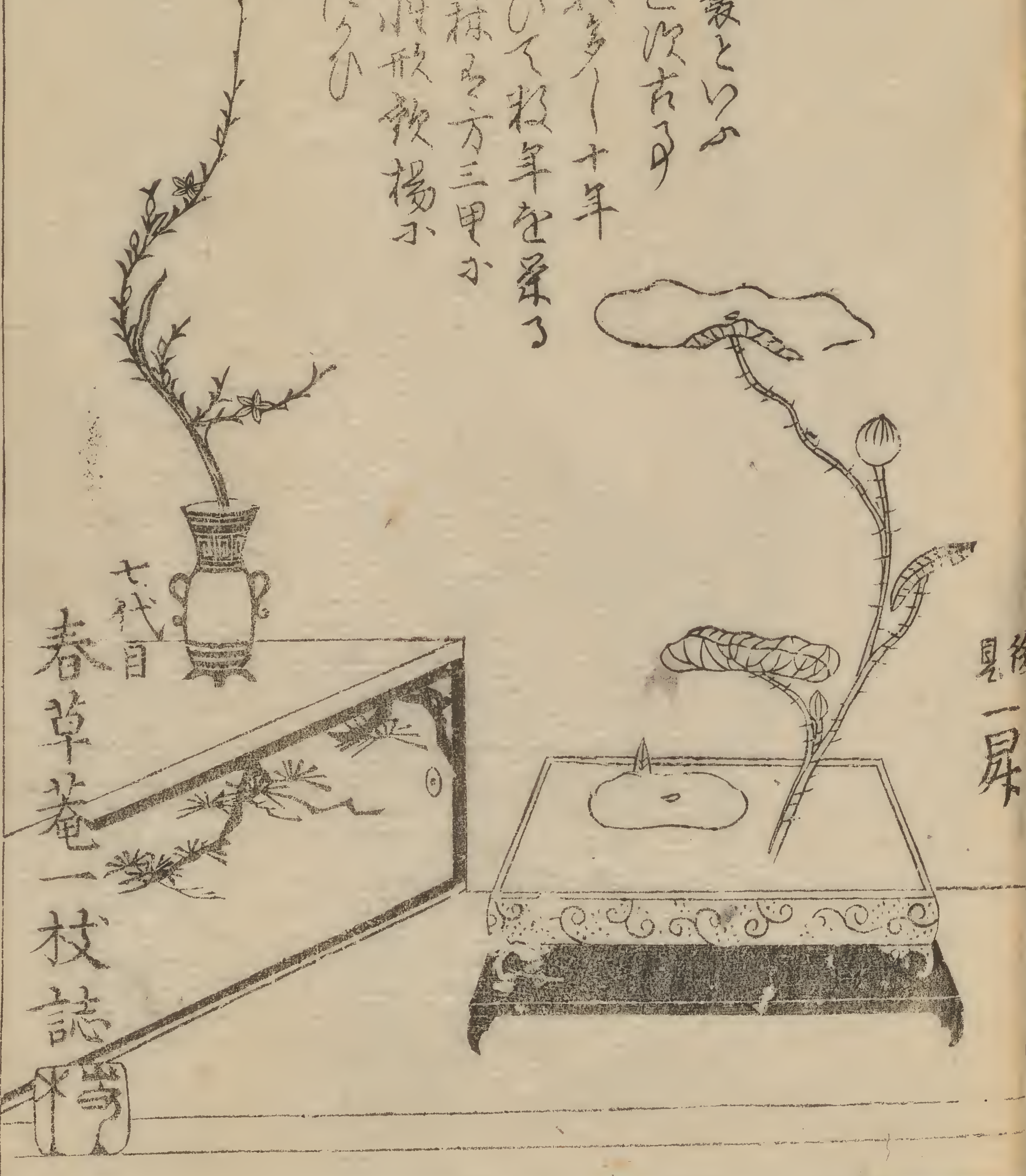
花競曰呉中之人家多種之以其盛衰
占休咎造屋移居行聘治壙小兒初
生一切喜事雪中よりも末頃の
ためを生じ　夜令くせば
若し二葉えらく
うちに葉あり
わけに又二葉
ひらけ新葉を中
から葉さらやく
種数多く　来めり地にはれ
大きし　今を葉といふなり
文化年中琉球より渡る秋葉の
うちに黄の小葉を開く又文殊葉
また万年青に似たる葉らん等に
似て但し土上ニ　るくせる

二代目
交柳菴改
春秋軒誌

交

万年青
新葉含の図

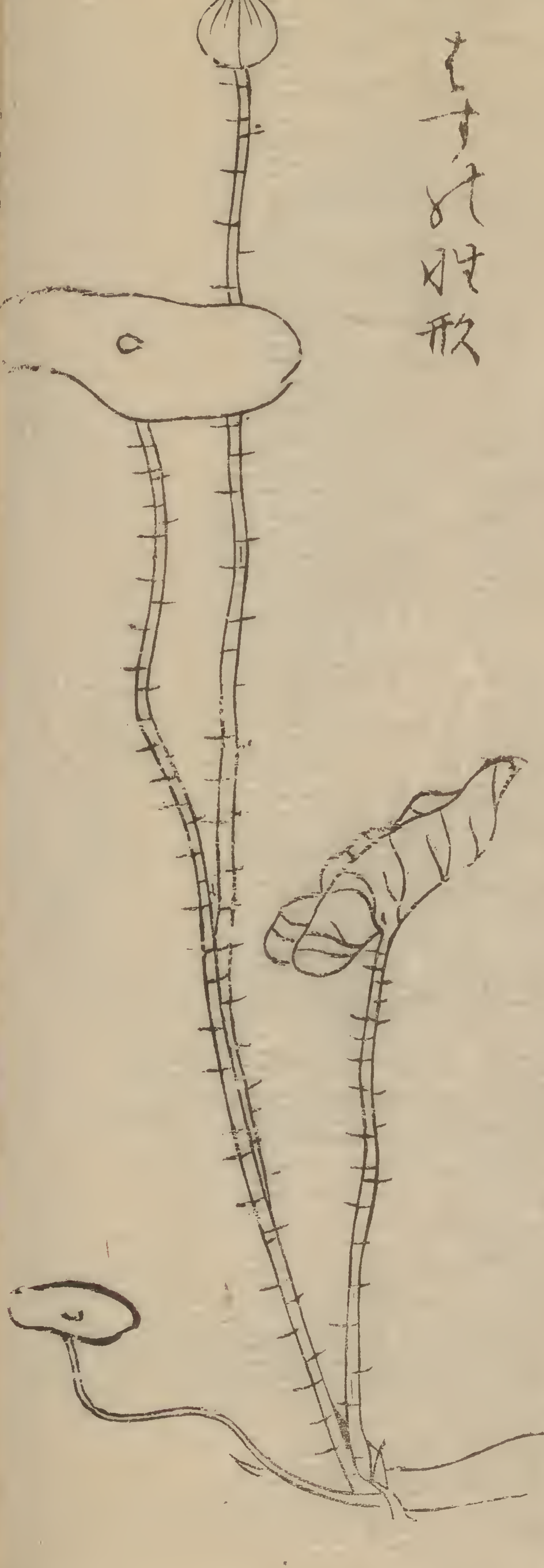
桃ハ百鬼製といふ
五行精也と汉古より
有て称義多し十年
に老ひ花ひらいて数年を栄る
西国の桃核ハ方三里に
及ふ翔翁樹形欲揚に
似てめでたしたとひ
也とあり



一昇

七代目
春草菴一枝誌

蓮ハ初夏より色ゝみ六月をさかりと仍清沢をこのむ二葉
のあひより花を包むごとくさのまかいかり葉より高し花
ハ倍かり引しで包む花葉をわふハ秘傳れ十二節
をなし 又閏年ハ十三ふしをとりつと云



交旭菴一昇誌

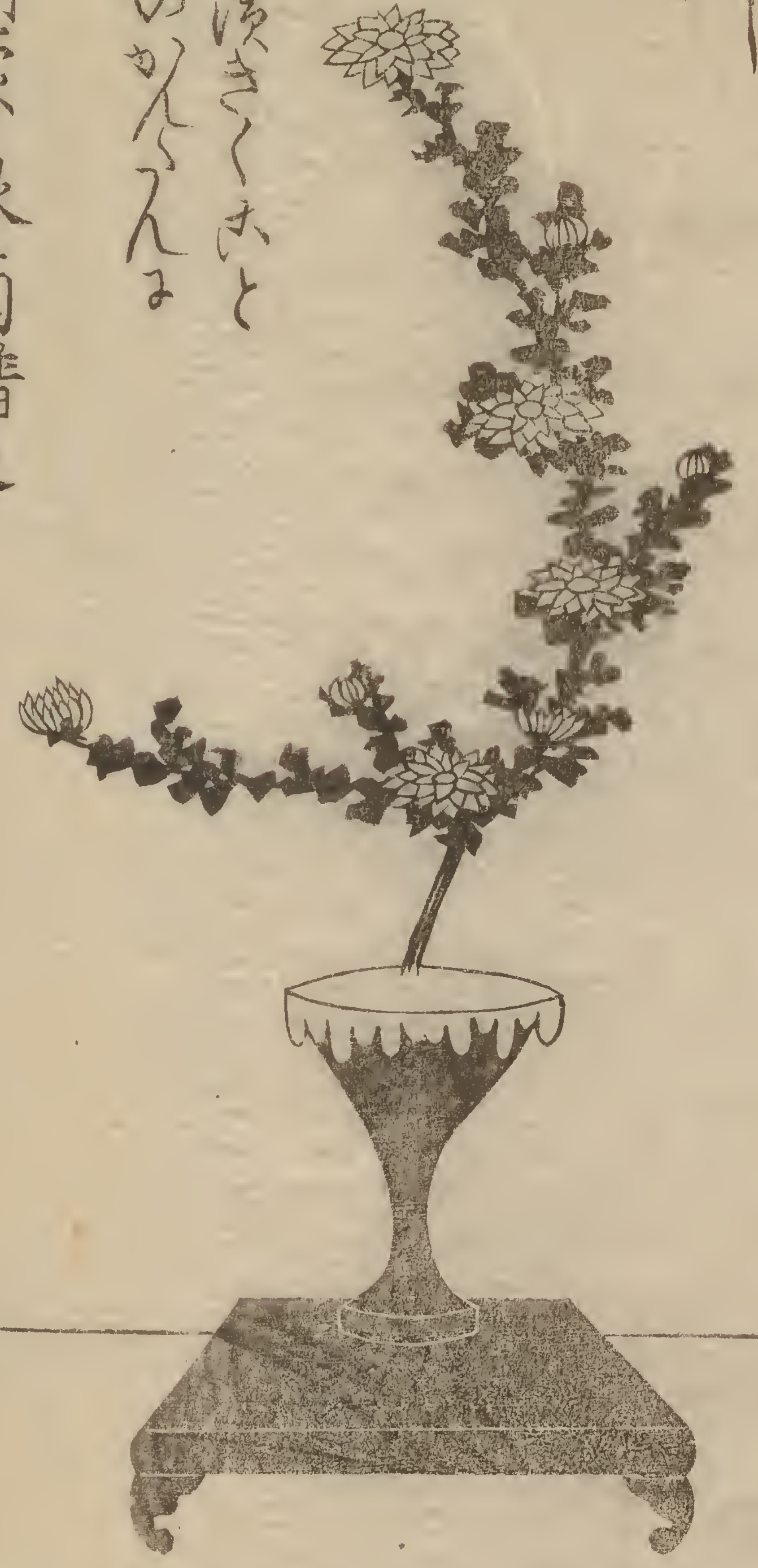
木賊

砂の上に一根より数本生し
秋ら花の先に茶実をなす
茶形ハ蘭に似てまたいあるに
こと葉ことべし

ちなミによりてまるすふとゐ
わそゐとも沢中に生しいけ
うくハせハ汀衆をもうちてまぐ
に連ふ成し

交進庵一啓誌

菊ハ甚秋二度咲あり古株
より何本も出る大菊
中華にも珍しき種之
本邦の菊ハ秋の種菊
のみをいふべし
夏白きハ多し
淡きく黒で
きく何れも
秋さく
甲斐の
ものハ六月
遠藤の世川淡きく花と
ごとく咲沈のかんらんに
ありぬり
花鏡曰如劉蒙泉菊譜之
遂有一百六十三品范至能史正志馬列王藎臣皆有譜其名

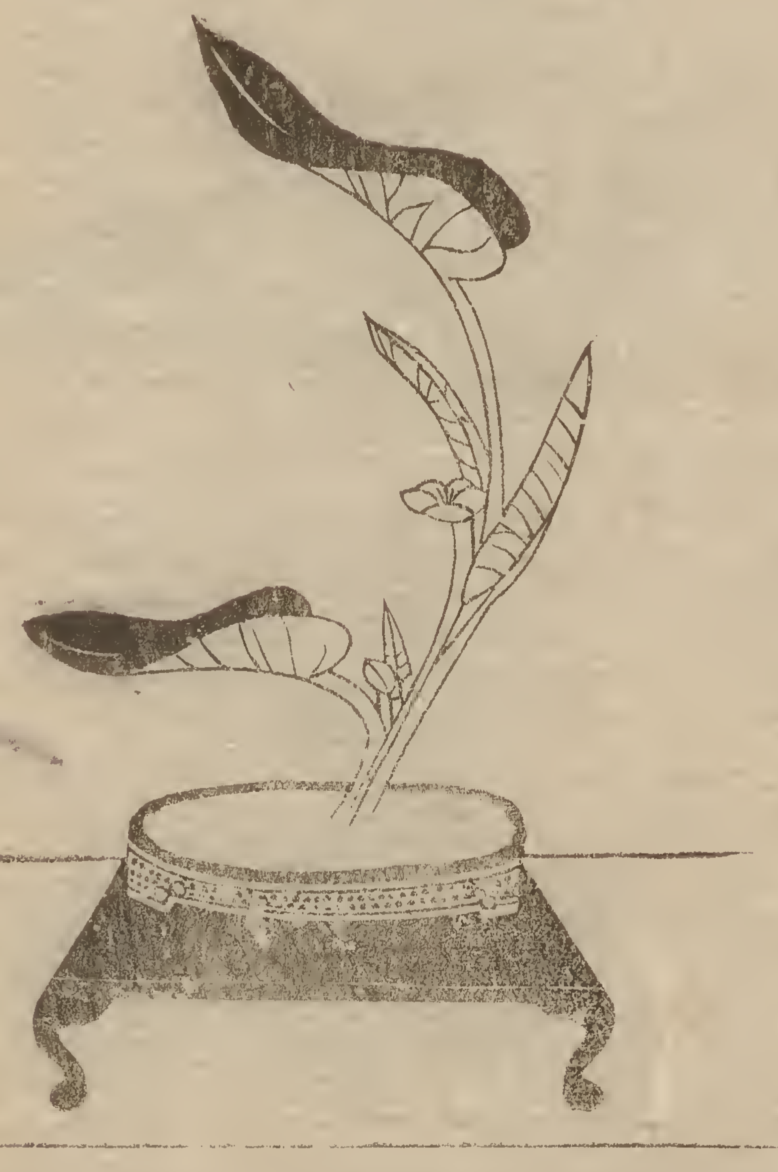


交進庵連
進榮庵
一船誌

彼岸桜
大和本草ニ曰むかし梅を花とよべり
桜さかりて花といふハ淳和の頃より
菊咲ぶらりも日本ニ桜をのみ花
ト云を種類多し　又彼岸桜ハ
十月咲なり
別種ニあぶらげ桜
ともちよりせん
ほかハ桜なりト云
三月さきうるさせん
ひがん桜ハ二月の末に
咲く

交進庵連
一窓誌

萍蓬
中春に新葉きざめぐみ
葉のゆるびあり葉の
くれなゐは初夏に
まるく水上に葉
をもらしなびて
葉ふづいて下に出る
葉取ハ一様ならむ
きあふ中夏ま
さらんなり為
花は待ゆり葉へ
るくはりふべりしは
同様に國ぶふ不祢と
いふ所席にさしてさむ
おいらだうりかくてかしなしが

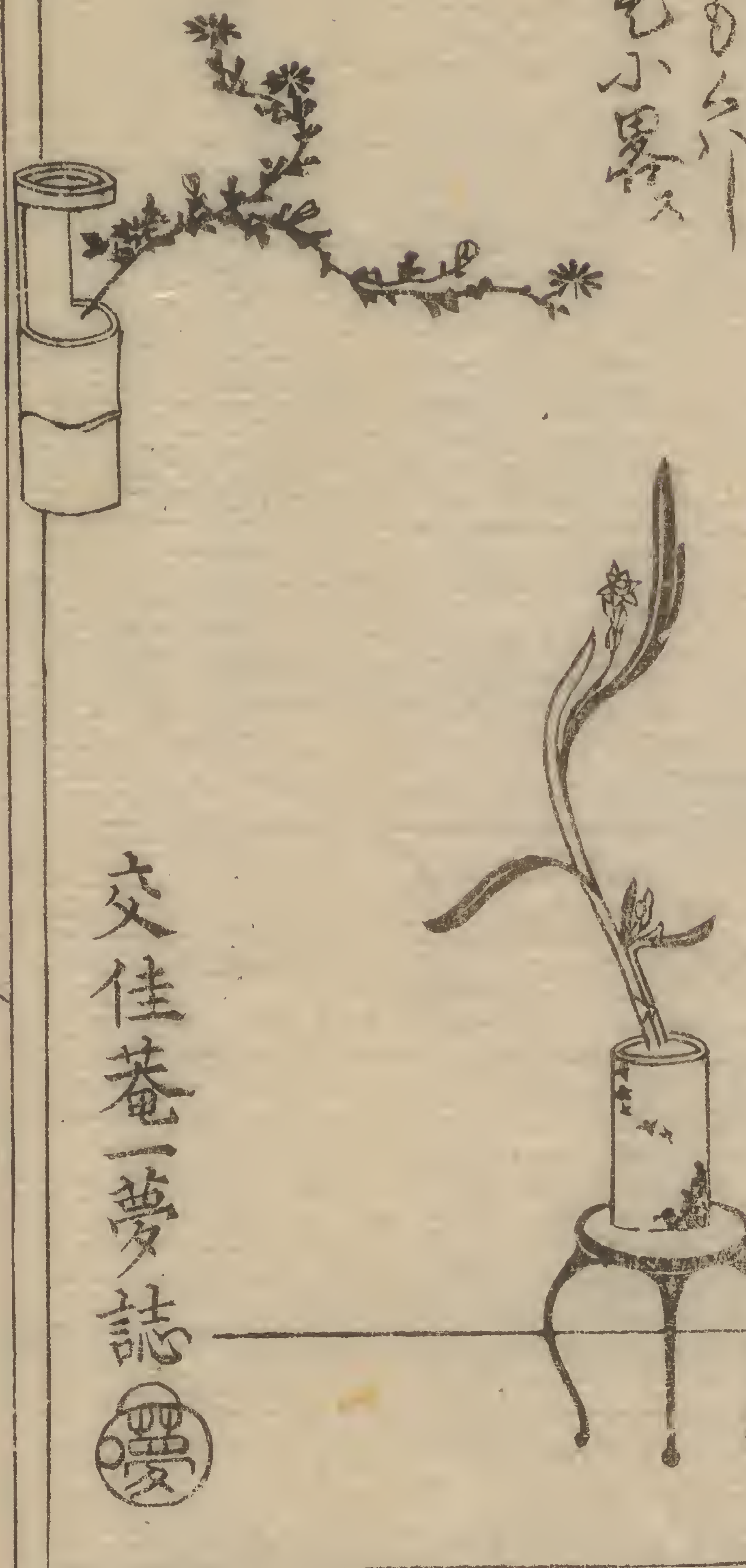


交木庵一工誌

かくれねの
うき葉れまり
らんらうち
葉はひらし
みのうさち

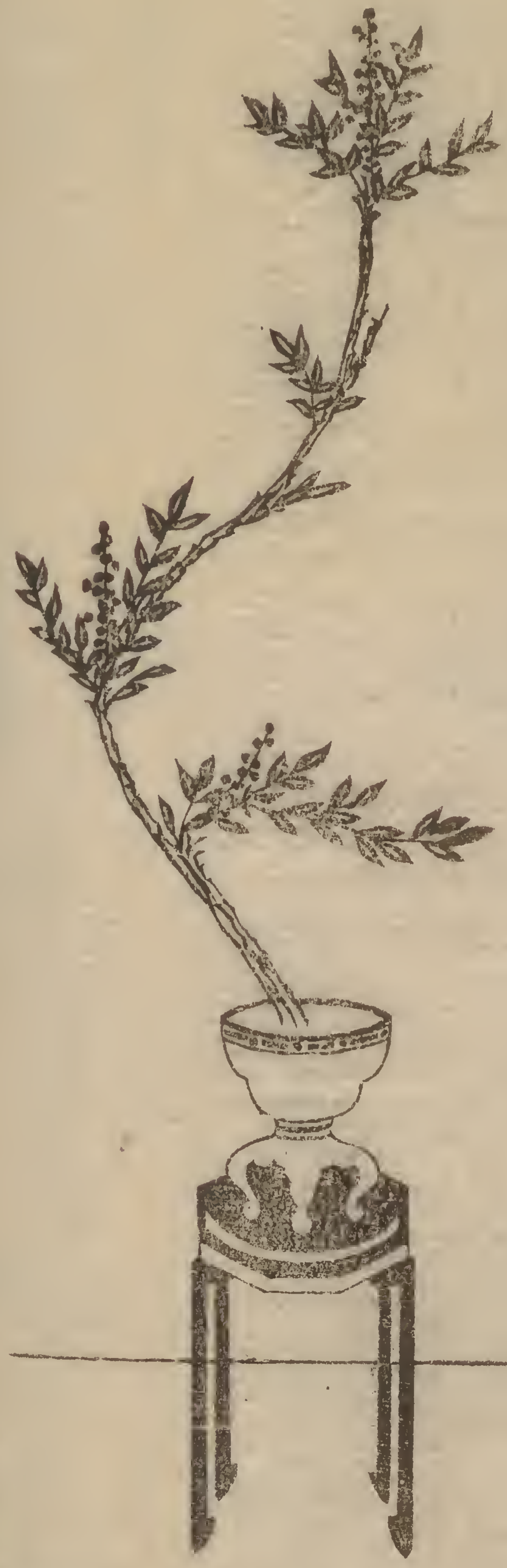
交明庵一莚誌

あくるふる仙
まくともらし
はれハ足小男



交佳菴一夢誌

南天燭ハ牡日あくろ日りけの地よし
花鏡ニ曰南天燭ハ人家に植て火災を
防といへり葉白花を開き実を
むすび秋の末より紅色になり
一根ありみ枝ゆ多く出るたいかるに
傳来より世上に諸て活ふることせ
直ふたゞへはをふべからず次



水仙

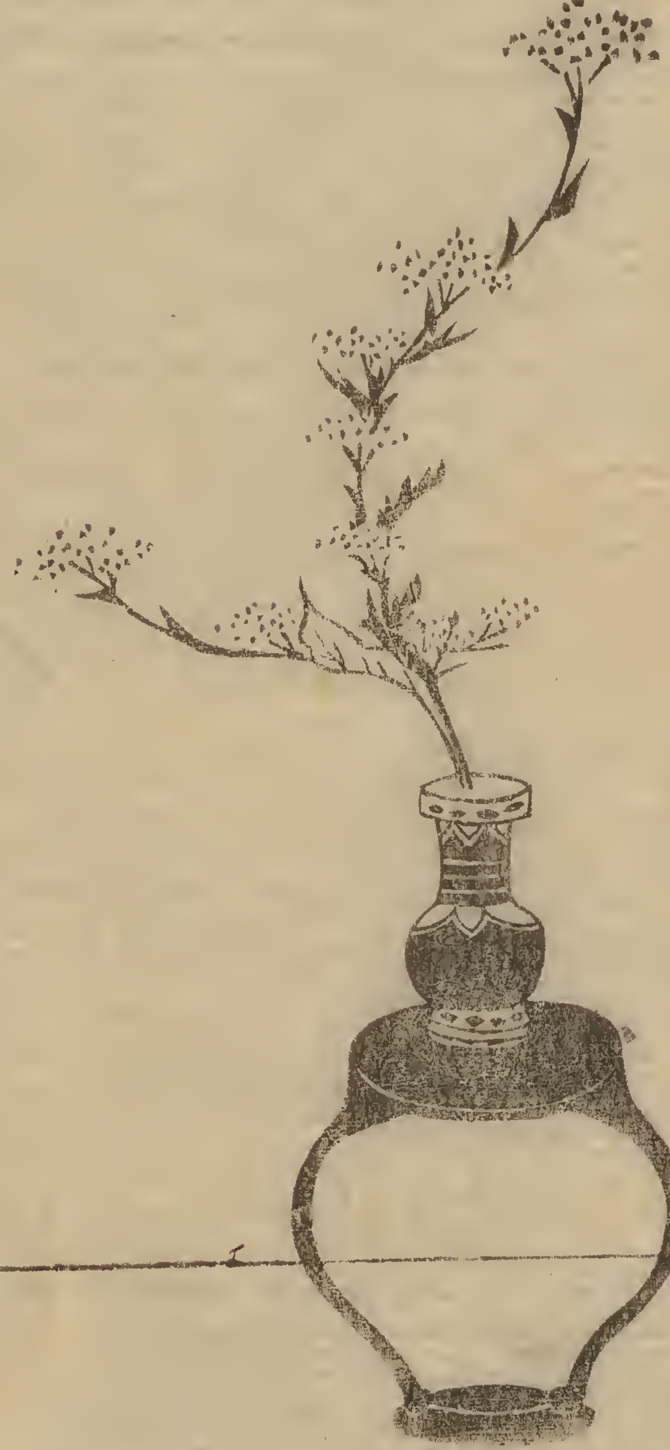
水仙ハ日本安房の山岡に多せし葉十月
より生なりて根の玉に白袋ありてそれより
二葉出てのちに葉となるうちに葉茎に向て
引らく葉の袋をひらくる葉ハ三葉又六
葉ありこく真根叢葉全昏になるべし

瓶花に用ゆる
さぬくれ花ひらくあり
手ちえに梅花かつに
初学の用ゆることなり

交水庵一空誌

敗醤

秋草にて山野に生し古かぶより花出る
是年々のまゝ根よりハ葉をかり生じ越て
かぶ苑かこまを用し花をたいめるにかこう様
ぶあり

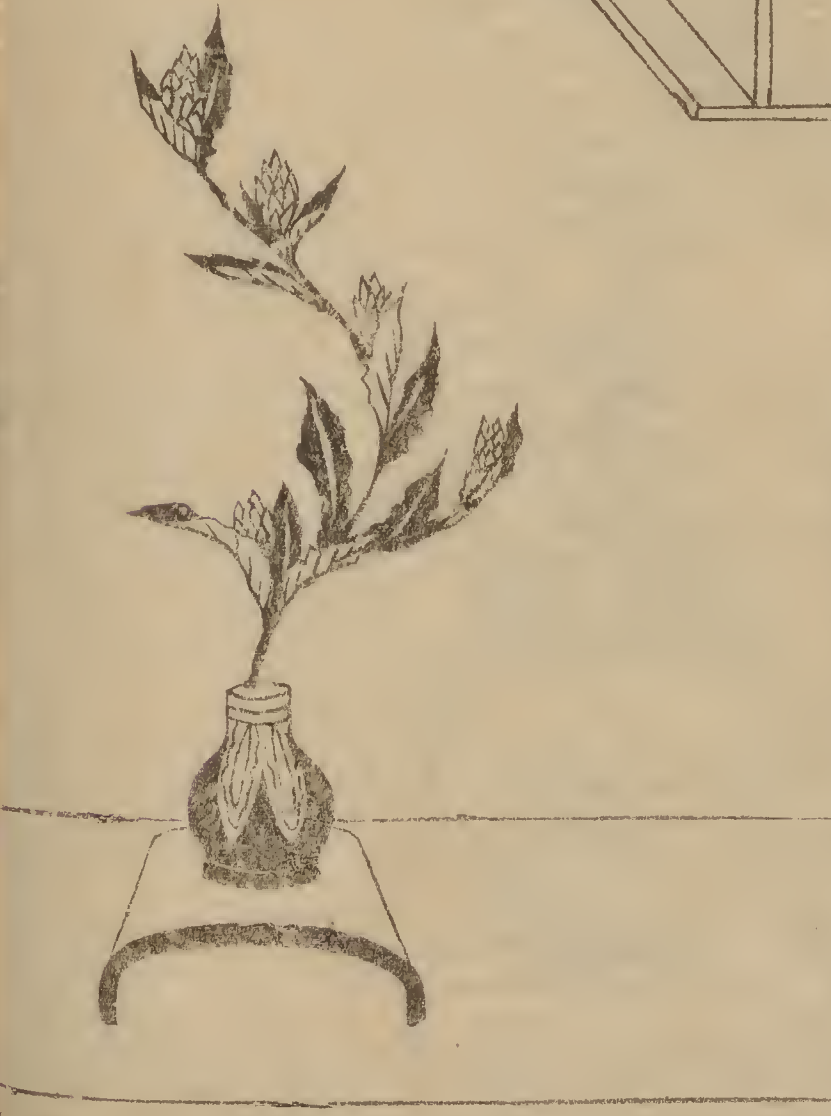


交曙庵一鳥誌

献歳菊ハ貝原翁側金盞花と
いへり江州の山中ニ多し花形菊
ニ似て元日草ともいへり
誹諧ニてハシユンクと云ふ

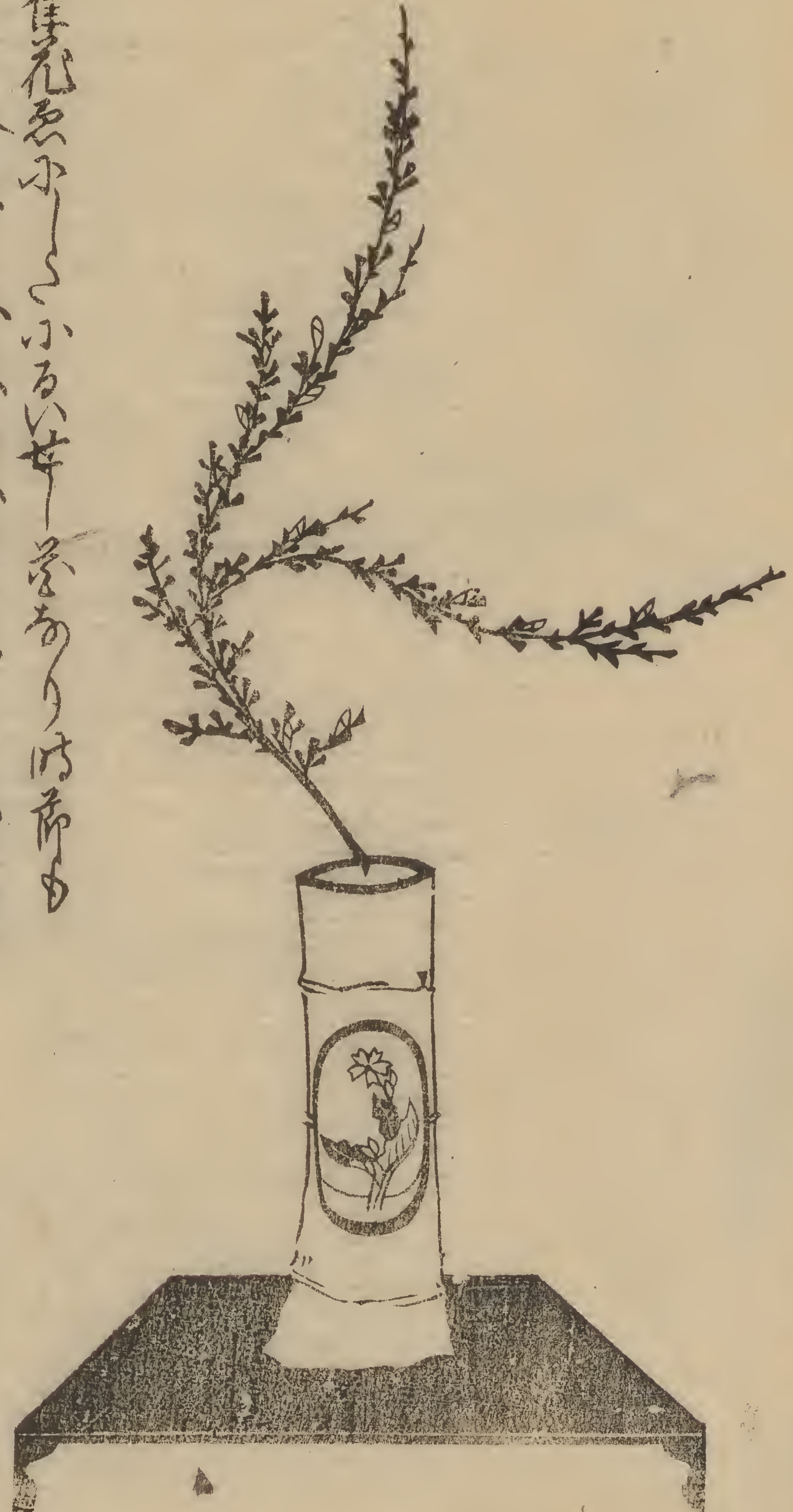
交葉庵一芦誌

千日紅ハ秋の初花なり
京都ニハ白花あり花形
金銭ニ似たり天和貞享
年中ニ初て本邦へ渡ル之



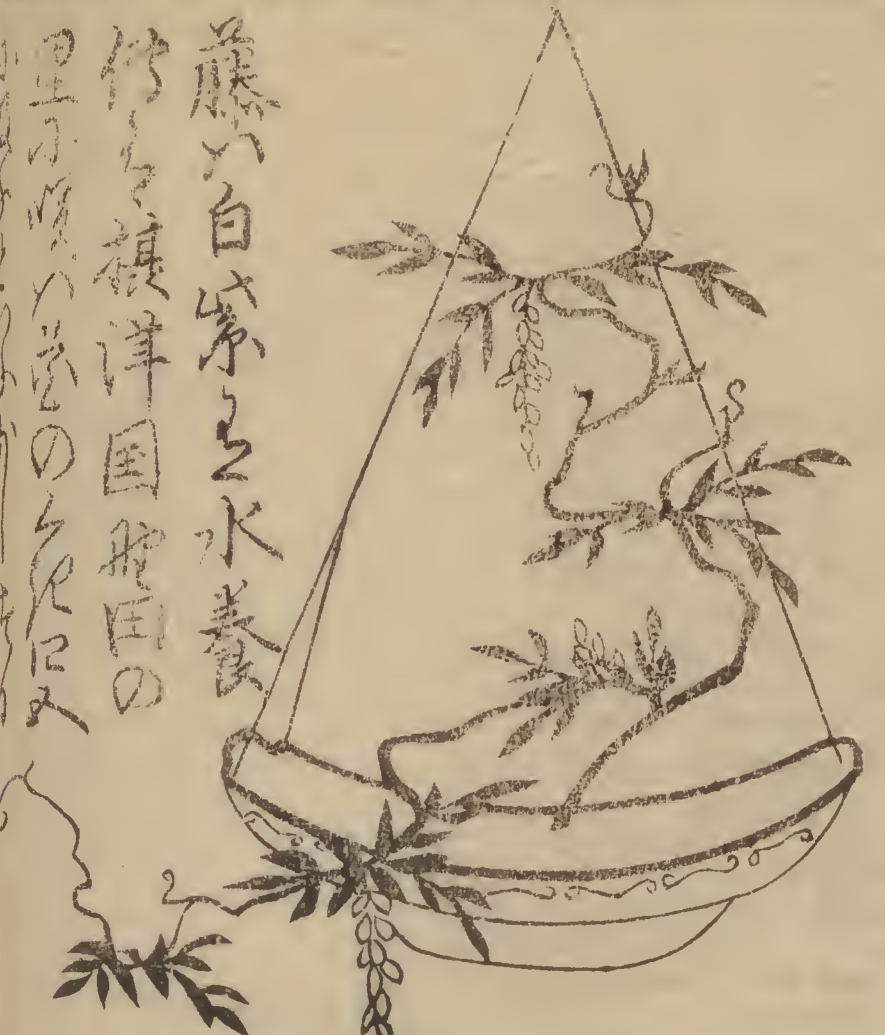
交纈庵一僊誌

金雀花ハ花にしてふるハ葉し花あり時節も
同しく春咲く花形山吹萩ニ似てあまて
ながきをもつてよしとまゝに数を黄梅の
枝ふりあて
棣棠ハ同時ニ花咲色赤し葉のむき合ニ有よりせる



一園誌

山茶ハ春咲紅白又うすき色も
花形ハさまざまハ花ニ同し葉ニ
赤もよけ生きひ花をおほふ
やかさすべし
家内の枝たくみへくらしぞ
花瓶鶴首卿のうちと云



藤ハ白紫も水養
竹まて稜洋国肥国の
里ニ咲ハ花のちえ口え
小倉より[illegible]かり[illegible]

一肥誌

一舎誌

梅

其性山岡ニ生し初冬ニ花咲
花あハ多しうぞく雑しむめ
えどら花形ニ同し
其枝とつふき色ハ
枝のくさびニ
わしずまて
たびら花
白して
枝ニ
似より
一幹より
枝多くむこ
たえを生ず紅白八重一重の花あり

交盛庵一萃誌

菖蒲ハ沢に生し性状きつ
に用ゆし実ハ則に生る中宴を
第とせん

柳ハ楊と二種ある也あれ
多し桃ハ楊に似てりさえ
ぎやしのまぶれハ柳の形に
てますべし柳に三天のさし
かざる

赤ある所に甲斐の
山にりありある楊ある

交専庵一晋誌

交幸庵一漸誌

ちなみに云
野外さん川に
出くさと云なる
蚊母草と
本草に
みへたり

京
一萬誌

合歓花
別名ねふりし
きられ桜ハひがん
の日積へはでた
と云ふ則紙に云
しくぞ虎耳草ハ俗に
雪の下と云花ハ白く小花之春咲図の表
甲斐よりくせる三寸又二寸切ハ挿形に付
ゆり柳ハ初学に用

天 交莚庵一孝誌

人 交草庵一揚改一博誌

地 交莚菴連 一聚誌

交旭庵連 旭雄庵一見誌

牡丹ハ桜ゐるハ多し其の末古幹の先ふ出る花ふ可ゐ養ひ伐るを雌雄ともふあるゐ花形芍薬ふ同し初夏ふ花盛りてれり

蔓もどきハ秋の色 実いろづく梅もどき花ふ似たり花形あざきまの

あしハ花形より芦と同し石養ふ伐る本邦草の司とし一株より多く生じ候ものへ

芝桜川の近里住 一玄誌

祖 交卯庵孫 一之林誌

山葵

葉根より葉を多く生し虎耳草ふ似る青清き流ふ生し葉茎ふ似たり花白なり花形つてふきふ同し花の外ハ葉ふけるふますべし

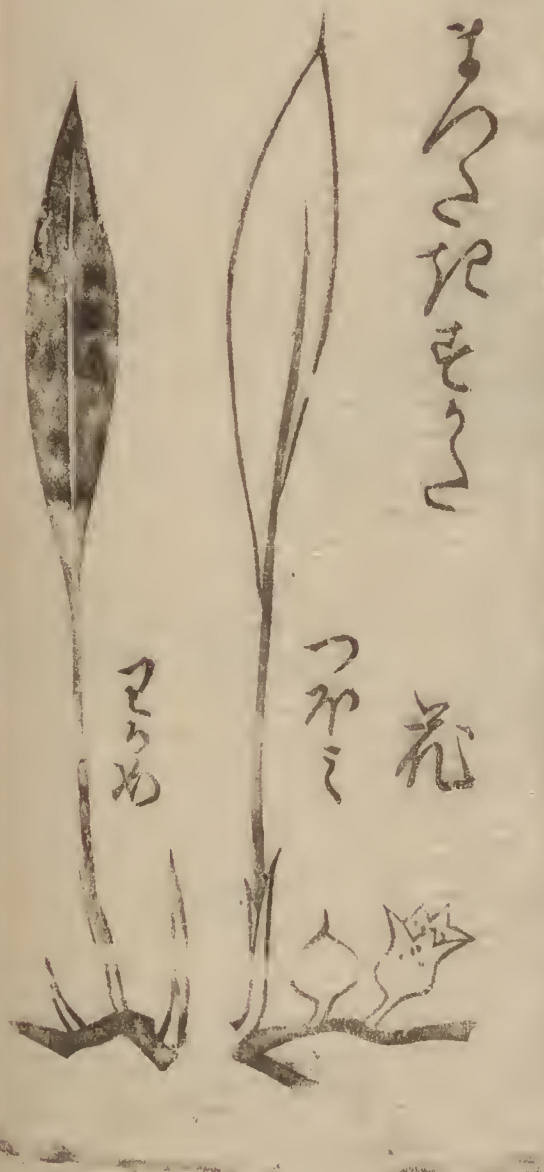
谷ふ生て 麿ふしらせぬ 山葵かな

北斎画 交

交麻庵一蓬誌

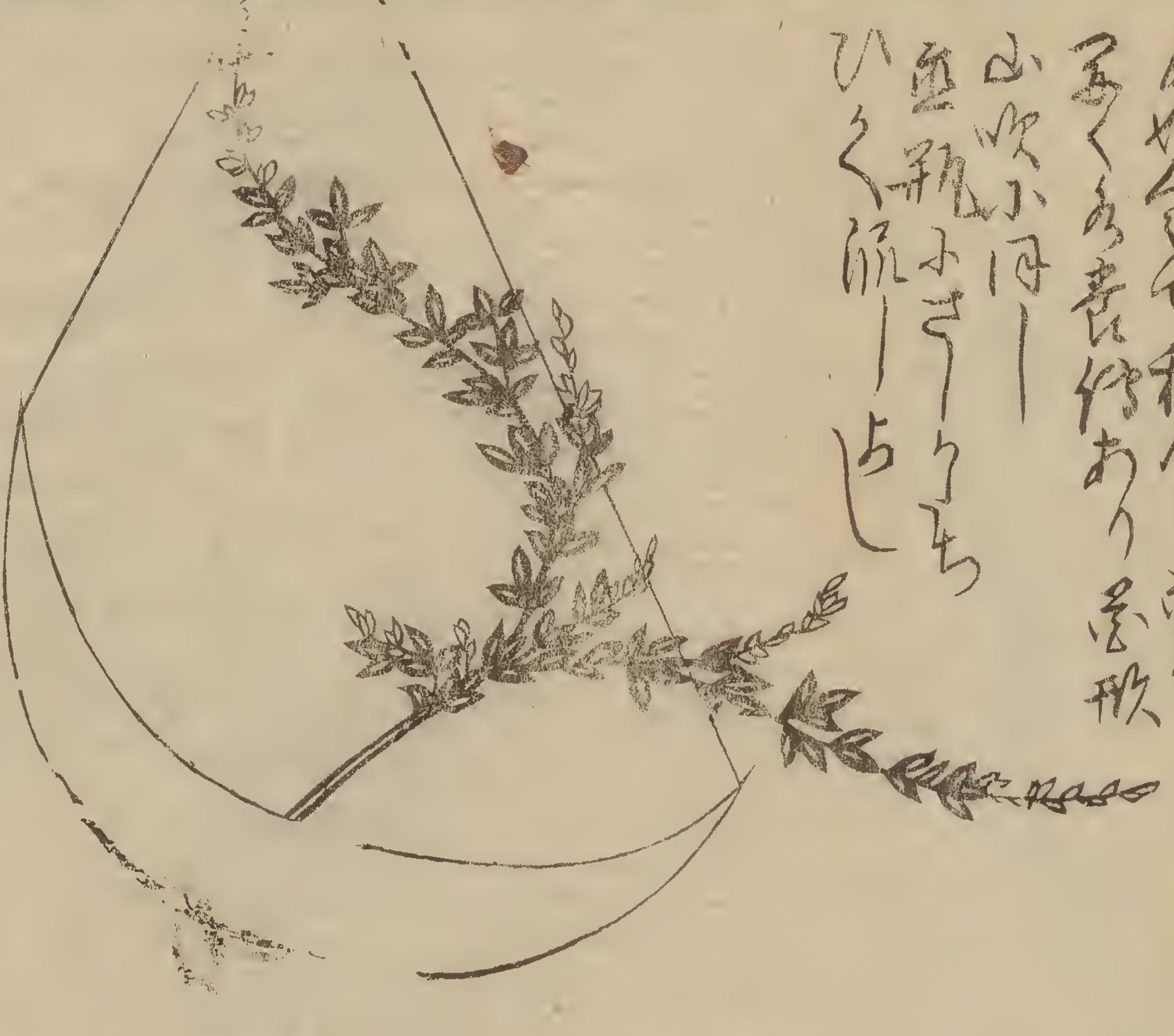
一 般蕙

幽蘭の種類多し 蕙蘭ハ茎の末ニ数多花をさかすのち葉まんさく成長すれハ中ニ葉ちり根元ニ別く葉いくまいも向ふあふ中ニ直しさすへし

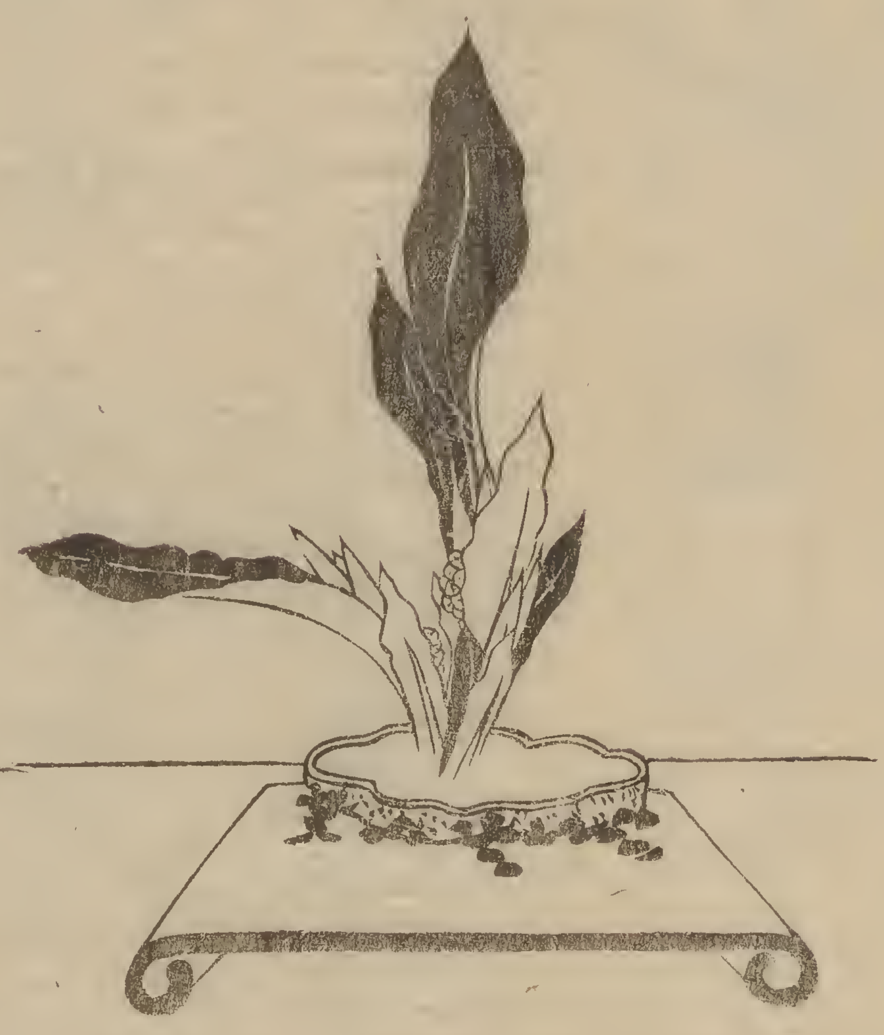


交鶯庵一穂誌

胡枝子花一株に多く交かへて秋なき花を多くある者流あり花瓶に吹に用ゆし画瓶ニさかりうちひく流し占し



秋月庵門
花月庵一静誌



交生庵一鼠誌

万年青ハ性形ハ先生ニ拙者ニ手まつく免す器なし近来三根一株花ハ時ニ

夫極意集ハ予三代目交柳庵と共ニ古實ニ由世乃
形を撰ひ草子花形ことし水仙菊其外の性形を述
述ふる書極意極意ハの配当形おもむきを識し
瓶花の大意を解く此書ハ世子行ふ事の
為事し継き予其以後篆校の中ニ甲斐國ニ
於而唐もと板刻ニ其書の誤りなきあらためて古
実の花形を再ひ弘めんと古来の粗漏を補なんと
社中ニ紙合せ此書を梓ニ上て世に残し置て流
行移之幹支の配当をも博く世に知らしめ
と口伝をして解得る事のなきものハ中ニ不知
花の法なとハ此書に記す其外の法ハあとに大ニ有ける
見ニ於いて之を示し古実の書冊と成すもの也

文宗幹述

一工誌

御さしむ一ゐ手に燕子花を侍ると
ゆかしき花あやしく

まそめく例かしこや杜若　一萬

源をたゞ一すしよ燕子花　一鳥

杜若けふ葉てゝめでたさよ　一砂

ほのめつる花あつて蝶く杜若　一舟

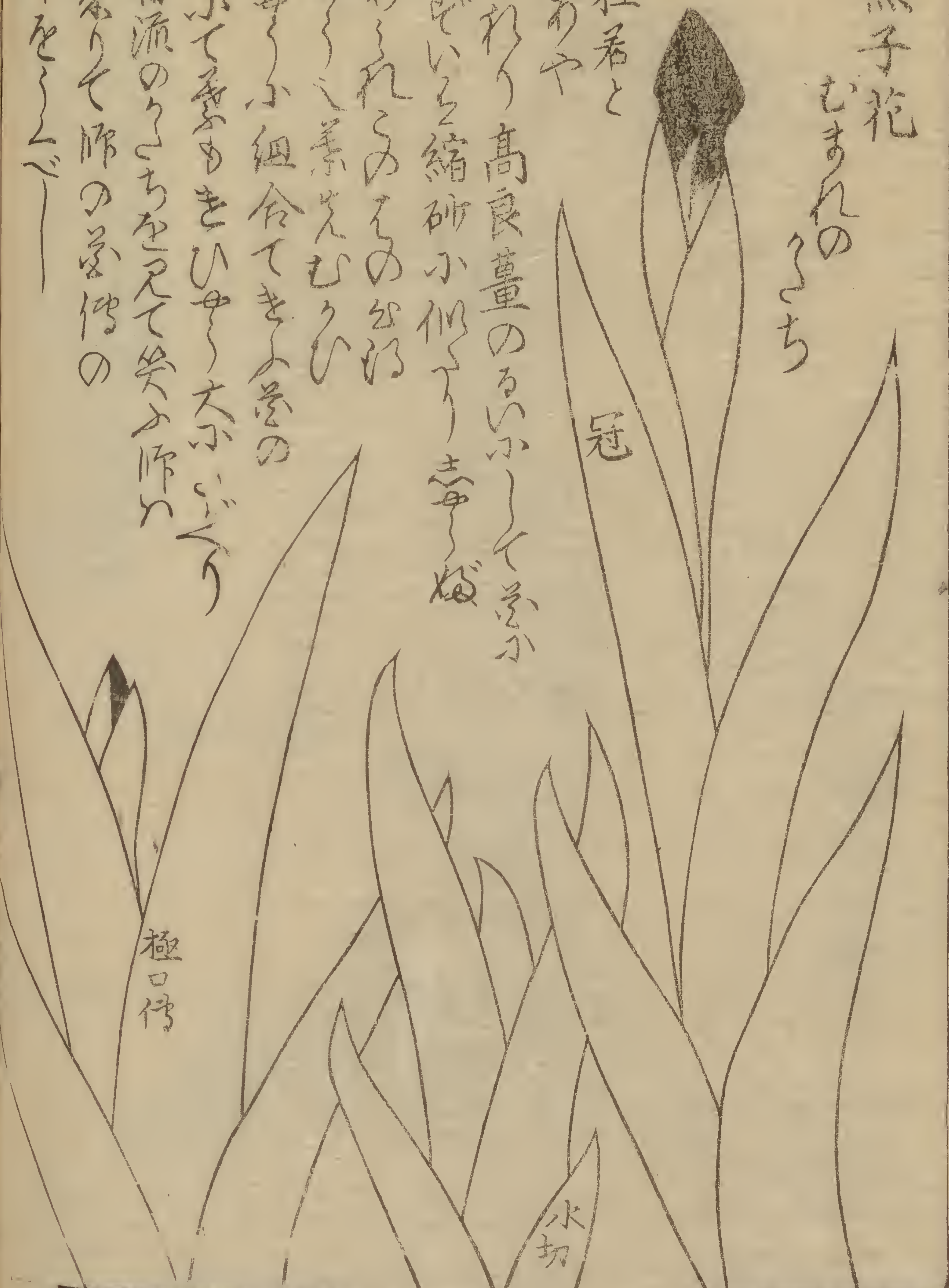
杜若ゟ生たし思ひの外　山舟写

天一水生幹枝乾坤
竹伯能飛中備

交雄庵一解誌

燕子花
むまれのうち

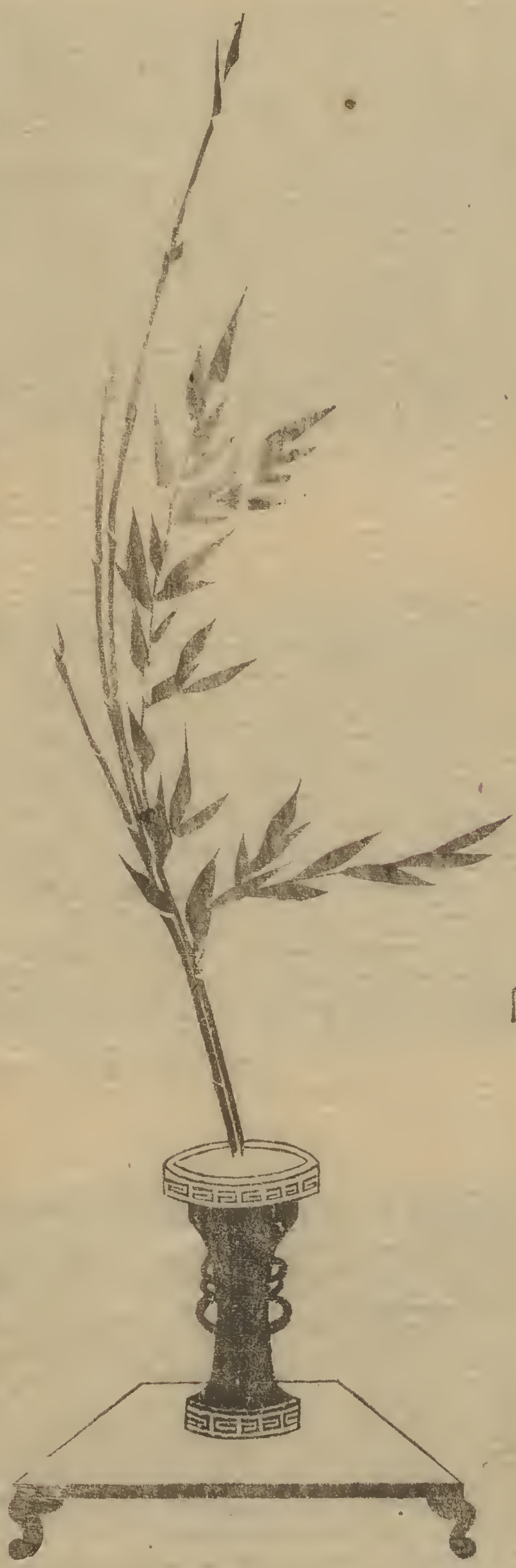
俗に杜若と
かくいあや
まれり高良薑のるいにして花に
葉の形いろ縮砂に似たり毒あり
あやめかきつばたの外の
かんおもくえ葉をぬむうひ
俗にいふ細合てきる花の
名なりて葉もきひしく大に
あり當流のかきつばたを見て笑ふ師は
養に来りて師の花傳の
書を見るべし



小車
初秋のは
菊の花咲
くるまは
車の花
に似たり

交雄庵連
一調誌

竹は積寒の中の節を節
といふは前作若竹の形は
おふつくろひ宗家は節冬ある
此類は傳あり



交雄庵連
一草誌
草

引書

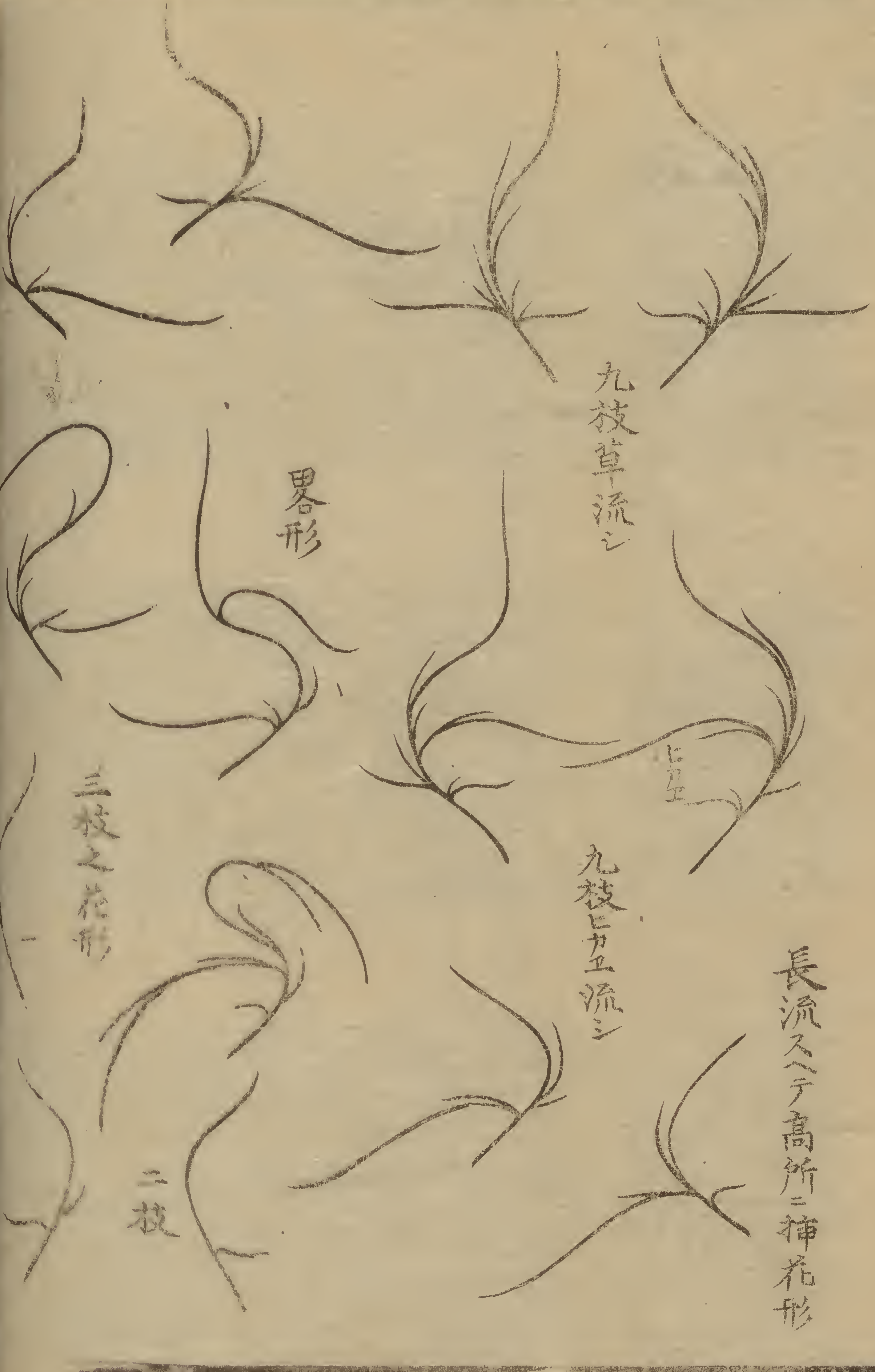
本草綱目
大和本草
日本記
本朝食鑑
藏玉集
八閩通志
種樹書
秘傳花鏡
地錦抄
[illegible]雑記

鎮江府志
漳州府志
延喜式
海桐集解
[illegible]綱目
[illegible]経
臺湾府志
農業全書
本草和名
万葉古今

草木育草
三才圖畫
典籍便覧
群芳譜
中山傳信録
和名抄

枝之大意

瓶花出水裏爲
亦天者曰巳入爲
耳目居五行者文
藏象人川中性者
然萬物爲理不讀
古書復昜合不讀
可讀空天者定金
極者極致生八卦



生六十四卦乾坤
三爻生五爻過去
未來三世莫爻爻妙
備乃艱荒生師草
本生之生語而后
能古實生覘法立
參兄可訓

交曙庵識

一蓬書

B No. 187
$
ムナ